

ゾエティス・ジャパンが提供する獣医皮膚科診療のトピックスを先生方にお知らせします。

マダニへの速効性と持続性を兼ね備えた

## サロラネルのチカラ

### サロラネルのノミおよびヒメダニへの〈殺滅効力の検証〉

T.L.McTier et al./ Veterinary Parasitology 222 (2016) 3-11

#### In vitroスクリーニング試験

##### 猫ノミ



被験物質を添加した5mLの牛クエン酸塩添加血を50mm径のペトリ皿に入れ、膜を取り付け、ノミの入ったチューブを膜に接するようにおき、メッシュの蓋を通じてノミが吸血できるようにした。ノミには2時間吸血させ、給餌開始後2時間及び24時間の時点で有効性を記録した。

##### ヒメダニ



被験物質を添加した5mLの牛クエン酸塩添加血を50mm径のペトリ皿に入れ、膜を取り付け、その上に5匹のヒメダニ幼虫をおいた。ヒメダニを約5~15分繰り返し吸血出来る状態でおき、麻痺/死亡について24時間後及び72時間後に観察した。

両試験の有効性の結果より、LC<sub>80</sub>あるいはLC<sub>100</sub> (80%あるいは100%を死亡させる最低濃度) について下記に示します。

#### 試験結果

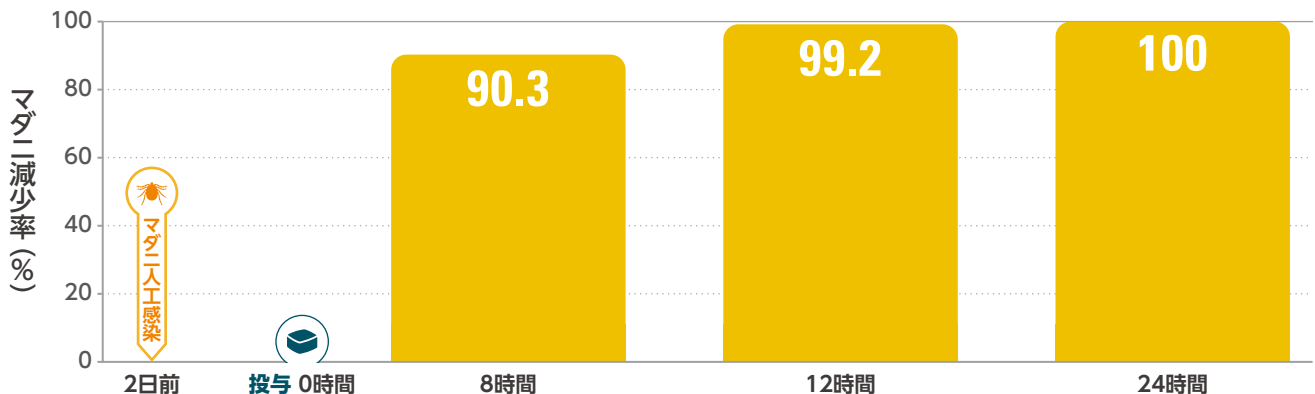
サロラネルは、他のイソオキサゾリン系化合物に比べて  
ノミに10倍・マダニに3倍の殺滅効力を示した。

化合物名	化学的性質	ノミ吸血 LC <sub>80</sub> (µg/mL)	ヒメダニ吸血 LC <sub>100</sub> (µg/mL)
サロラネル	S-エナンチオマー	0.1	0.03
アフォキシラネル	ラセミ体	1	0.1
フルララネル	ラセミ体	1	0.1



**マダニ寄生犬** に対する  
〈シンパリカ®〉投薬後の駆除効果の **速効性**

すでに感染しているマダニに対して、投与後8時間で90%以上駆除

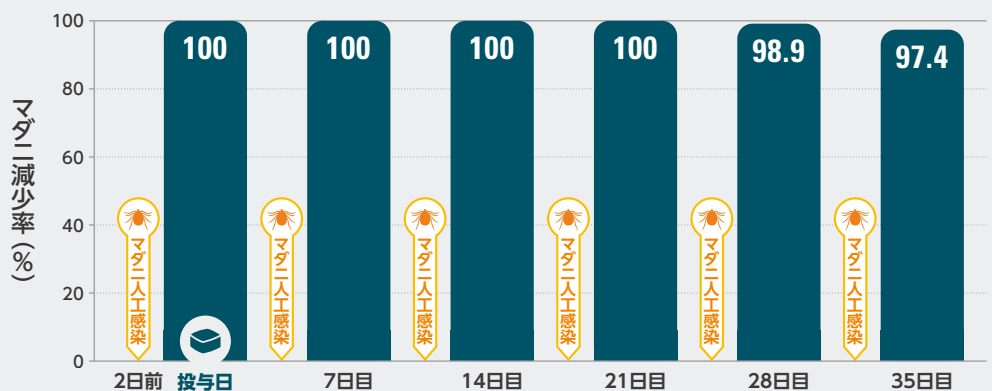


- 各群：成犬7頭
- 投与2日前にマダニ (*A. maculatum*) 50匹を人工感染
- 投与後8、12、24時間毎に生存マダニを計数し、減少率を算出



SFTSウイルスを媒介する **フタトゲチマダニの頻回寄生犬** に対する  
〈シンパリカ®〉投薬後の駆除効果の **持続性**

フタトゲチマダニの  
駆除効果は  
投与後35日まで  
97.4%以上を維持



- 成犬8頭
- 投与2日前、投与5、12、19、26、33日目にフタトゲチマダニ50匹を人工感染
- 投与後あるいは人工感染後48時間の生存マダニを計数し、減少率を算出

出典：シンパリカ®申請資料



ゾエティスのサロラネル製剤  
犬用 ノミ・マダニ駆除薬

**シンパリカ®**  
(サロラネル) チュアブル錠



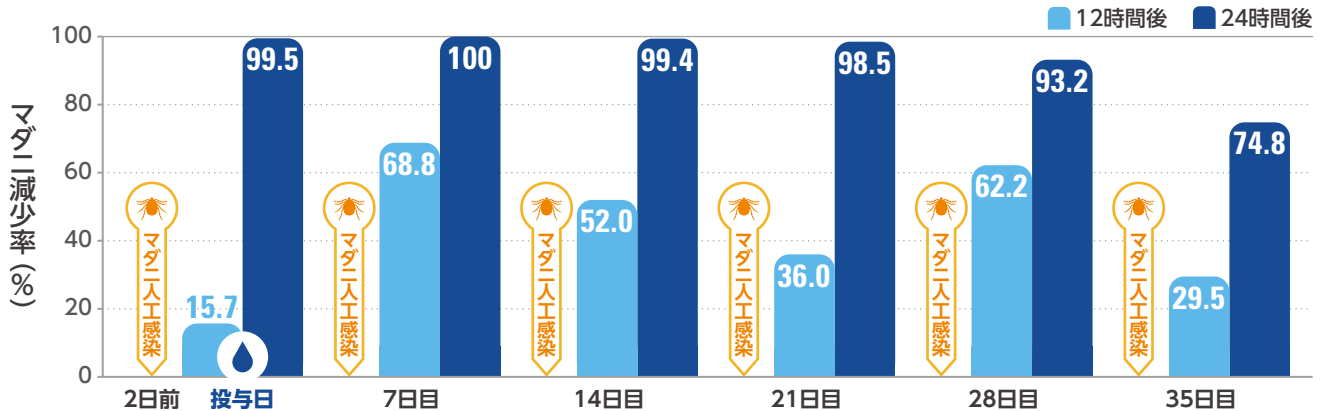


## マダニ頻回寄生猫 に対する

### 〈レボリューション® プラス〉投薬後の駆除効果の速効性

マダニ感染後12時間以内に殺効果が発現し、24時間以内に93%以上駆除\*

※ 0日目と35日目を除く ※ 0日目は投与後24時間以内に殺効果を発現し、駆除効果は99%以上



- 各群：雑種猫8頭
- 投与2日前、投与7、14、21、28、35日目にマダニ (*Ixodes ricinus*) 50匹を人工感染
- 投与後あるいは人工感染後12、24時間毎に生存マダニを計数し、減少率を算出

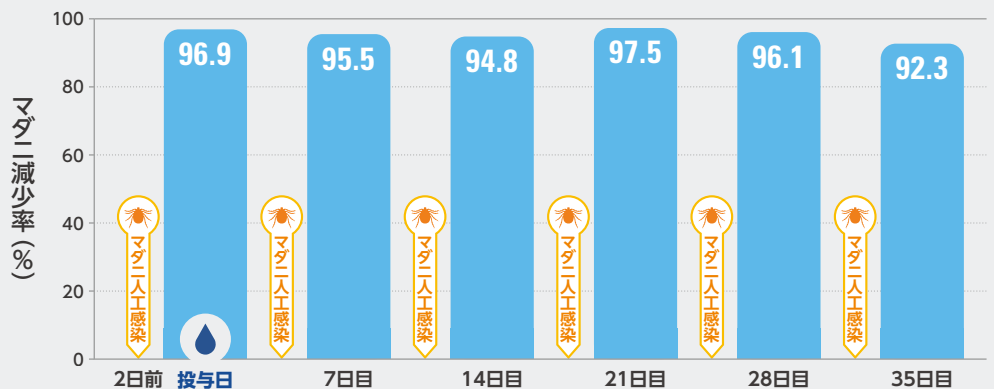


## SFTSウイルスを媒介するフタトゲチマダニの頻回寄生猫 に対する

### 〈レボリューション® プラス〉投薬後の駆除効果の持続性

フタトゲチマダニの  
駆除効果は

投与後35日まで  
92.3%以上を維持



- 雑種猫8頭
- 投与2日前、投与5、12、19、26、33日目にフタトゲチマダニ50匹を人工感染
- 投与後あるいは人工感染後48時間の生存マダニを計数し、減少率を算出

出典：レボリューション® プラス申請資料



ゾエティスのサララネル製剤

猫用 寄生虫駆除・予防薬

レボリューション® プラス

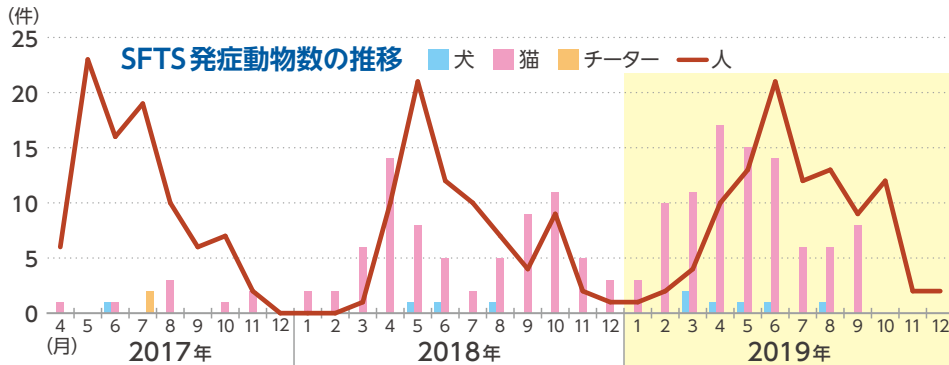
セラメクチン/サララネル



## 〈マダニ媒介性疾患トピックス〉

### SFTS対策の啓発が全国的に急務となってきました。

**実は** SFTSの発生件数が過去最多にまで増えています！  
さらに、人よりも猫での発生件数が多く報告されています！ (2019年1月～9月累計)



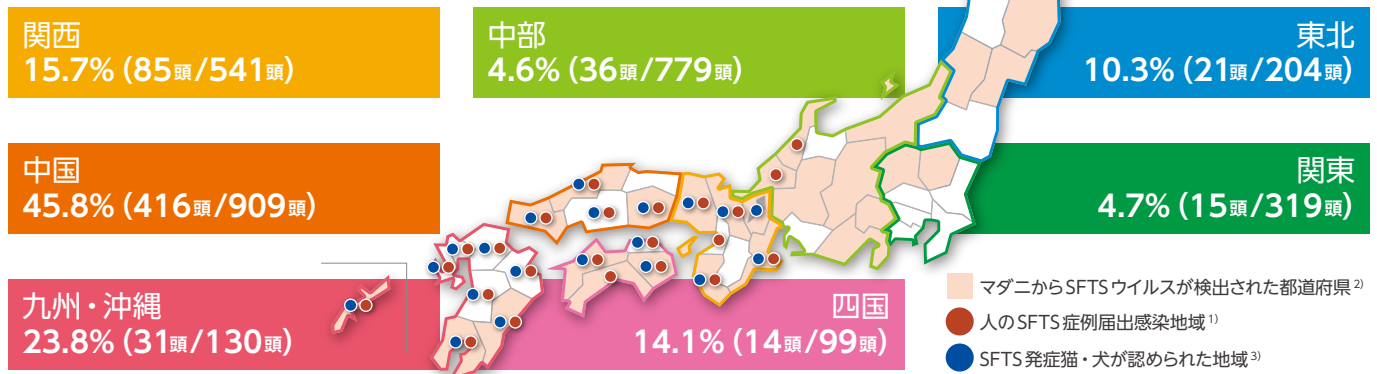
- 2019年1-9月期では、人よりも猫の発症数が多くなっています。
- 人の発症数(2019年)が、過去最多の100名に達しています。

出典：「SFTSの脅威と感染リスク、診断と予防、SFTSからスタッフを守るために必要な対策とは？」EmVet主催特別セミナー(2019年12月15日 大宮)  
出典：感染症発生動向調査で届けられたSFTS症例の概要(2020年1月7日現在報告)、国立感染症研究所HPより

**実は** 人と同様に猫のSFTS症例が近畿以西で広く確認されています！  
さらに、抗SFTS抗体を保有している野生動物が全国的に確認されています！(例：シカのデータを示します)



シカにおける抗SFTSV抗体保有状況 (N=3006・平均20.6%)<sup>3)</sup>



1) 国立感染症研究所HPより 2) SFTSウイルスの国内分布調査(第三版)より 3) EmVet主催特別セミナー(2019年12月15日 大宮)より

獣医療関係者向けにSFTS感染猫症例に対するFAQが公開されています。(国立感染症研究所HPより一例を示します)

**Q** ネコの飼育者が注意すべきことは？

**A** 日常的な対策としては、ネコの飼育者にマダニ駆除剤の投与についての指導を徹底してください。飼育者は、ネコの健康状態の変化に注意し、体調不良の際には動物病院を受診することを勧奨してください。万一、飼育しているネコがSFTSと診断され、飼育者が発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)、頭痛、筋肉痛等の症状がでたら、医療機関を受診し、かつ、飼育ネコがSFTSを発症したことを医師に申告するように指導してください。

マダニを人やペットの住環境に持ち込まないためにも、  
速効性および持続性駆除効果に優れたマダニ駆除薬の使用が重要となります。